

醉花

千切れた雲の隙間に 映 波雲飄過的空隙之間 掩

ゆる今宵の月は
解けた帯によく似た 淡
い花模様
愛し君の唇が 口ずさむ
手毬唄
あの日の面影はもう 禍
夜最後の果て

映出今夜明月
恰似寬解下的腰帶上 淡
雅花紋
妳可愛的小嘴 輕聲哼起
童謠小調
那日容顏已成爲 那夜災
禍最後的結果

根雪の下で芽吹いた意思
の
蕾は何処で咲くのだろ
う？
差しのべた手の温もりは
変わることなく

殘雪下破土而出的心意

花苞又會在何處綻放呢？

伸出的手 溫暖還尚未消
散

失くした物を忘れ去るよ
うに
過ぎ行く四季の移ろいに
道の端揺らぐ花よ 君は
今何思う

就像要忘卻那些失去的事
物
四季輪轉交替不停
路旁搖曳的花啊 妳現在
又在想什麼

遠く滲む縹色 流々と旅
行く魚は
「己が運命」と散りても
羽瀬に惑いて

共長天一色的流水 絡繹
不絕的魚群
說是爲「自己的命運」而
犧牲 卻是困入了魚簍中

葉黒無く脆く砕けた命
（ツキ）の
欠片は何処へ還るだろ
う？
天翔けるその煌きは 語
ることなく

飄渺而脆弱的這已經破碎
的生命（殘月）
碎片該歸還於何處呢？
曾經在天空翱翔時的輝煌
也無人能訴說

共に朝まで話した夢を
紙の小舟に浮かべよう
長く続くこの旅路を 静
かに見送って

一同徹夜暢談的夢想
摺成小紙船浮在水面上
這段漫長旅途 只能靜靜
目送

君在りし日の あの彩り
よ
何時かまた音連れるよう
に
ぽつり、ぽつり 紡ぐ音
霊 夜風に乗せて

妳尚在時的 那片光彩啊
要待何時才能傳來音訊
一點一滴 紡出的音符
乘上夜風

去りゆく物へ 捧ぐ思い
の
その儚さに止め処なく
瞼から落ちる玉は 何故
杯を染む

對遠去的事物 奉上思念
這片虛無感無處可安
眼角滑落的點滴 爲何濁
了杯中酒

又是一首以《碎月》爲曲調填詞寫的歌呢，算上之前翻譯過的《愛き夜道》和《月見桜》這已經是第三首了，看來我真的很喜歡《碎月》的曲調呢。聽過之前這兩首的人大概會感覺出來，雖然三首歌有共同的曲調，卻有不同的曲風，大多東方同人的音樂都是如此，因爲原曲都是神主ZUN的遊戲配樂，沒有歌詞，於是同人創作者根據各自的理解重新演繹成不同的二次創作。某種程度上，這很像自由軟件社區呢。

すいか

標題「醉花」，是個文字遊戲，因爲《碎月》這首曲調算是《東方萃夢想》的BOSS 伊吹萃香的主題

すいか

曲，標題就是萃香這個名字的不同漢字轉寫。

曲風用詞非常古樸，以至於只看到了兩個音讀漢字詞（「意思」和「四季」），別的漢字都是訓讀，甚至作者給出的訓讀表記的一些詞的漢字寫法接近萬葉假名，而非現代更常用的訓讀漢字，看來作者是想模仿中古時代那段時期的日語風格。這古風翻譯起來也更困難，於是照例，標假名的同時給出字詞解釋。

ちぎ くも すきま は ちぎ くも
千切れた雲の隙間に映
こよい つき
ゆる今宵の月は
ほど おび に あわ
解けた帯によく似た淡

ちぎ くも
千切れた雲：ちぎれ雲，
厚層雲下流動的斷片雲。

はな もよう

い花模様

いと きみ くちびる くち

愛し君の唇が口ずさ

てまり うた

む手毬唄

ひ おもかげ まが

あの日の面影はもう禍

よ も は

夜最の果て

てまり うた

手毬唄：手鞠歌，明治時期起小孩一邊玩手毬一邊唱的童謠。

ねゆき した め ぶ いし

根雪の下で芽吹いた意思の

つぼみ どこ さ

蕾は何処で咲くのだろう？

さ て ぬく か

差しのべた手の温もりは変わることなく

な もの わす さ

失くした物を忘れ去るように

す ゆ しき うつ

過ぎ行く四季の移ろいに

みち はじ ゆ はな きみ いま なに おも

道の端揺らぐ花よ君は今何思う

とお にじ はなだいろ るる たび

遠く滲む縹色流々と旅

ゆ うお

行く魚は

直譯：遠去的淡藍色融入（天空），匆匆趕路旅行的魚。

おれ さだめ ち
「己が運命」と散りて
はせ まど
も羽瀬に惑いて

はせ
羽瀬：一種類似魚簍的竹
製捕魚工具，漲潮時等魚
游入其中，落潮時把魚困
在裏面。

はかな もろ くだ ツキ
葉黒無く脆く砕けた命
の

はかな
葉黒無く：現代訓讀漢字
はかな
寫作「儚く」，飄渺不定
ツキ
的。命：這裏命是当て
つき
字，讀作月。

かけら どこ かえ
欠片は何処へ還るだろ
う？
あま か きらめ
天翔けるその煌きは
かた
語ることなく

とも あさ はな ゆめ
共に朝まで話した夢を
かみ こぶね う
紙の小舟に浮かべよう
なが つづ たびじ しず み お
長く続くこの旅路を静かに見送って

きみ あ ひ いろど

君在りし日の あの彩
りよ

いつ おと つ おと つ

何時 かまた 音 連 れるよう 音 連 れる：現代訓讀漢字
に おとず

寫作「訪 れる」，到訪，
造訪。倒是原本的寫法「
おと つ

音 連 れる」更能體現「帶
來音訊」的意思。

つむ おと

ぽつり、ぽつり 紡ぐ 音

たま よ かぜ の

靈夜風に乗せて

さ もの ささ おも

去りゆく物へ 捧ぐ 思いの

はかな と と

その 儚さに止め処なく

まぶた お たま なぜ さかずき そ

瞼から落ちる玉は何故 杯を染む